

授業コード	D8197ZZ		
科目名	大衆社会の社会思想		
担当者	村田 充八		
単位数	2	レベル	
開講期間	2017年度 後期	開講曜日	水曜4限
開講キャンパス	本キャンパス		
授業の到達目標およびテーマ	<p>テーマ:大衆社会の社会思想</p> <p>思想を社会との連関のうちにとらえようとするとき、社会思想史は、社会科学、人文科学を問わず、学問研究をするものにとって、一度は通過しなければならない関門である。本講義では、特に、ウィリアム・コーンハウザーの大衆社会論、マックス・ヴェーバーの近代化論、エーリッヒ・フロムなどの大衆社会論などに焦点をあて、その思想的背景を講義する。授業の目標は、特に、ヴェーバーやフロムの学説について、また「社会的性格」、「社会的エートス」という概念について理解することにある。</p>		
授業の概要	<p>授業は、社会思想史上、著名な学者の基本的主張点を説明しながら、すすめる。本講義では、特に、「大衆社会」という視点に立って、近代社会の歴史的過程の背景に存在し、社会発展の源泉となった社会思想について学ぶ。具体的には、マックス・ヴェーバーを中心に、思想家たちが書いた文献を提示し、その内容の概要について講義する。その過程において、大衆社会に生きる人間にとって、民主主義のパロメーターとは何かについて、「戦争と平和」の問題から考えてみたい。</p>		
授業計画	<p>第1回 講義概要の説明 大衆とは何か</p> <p>第2回 大衆社会と社会思想</p> <p>第3回 コーンハウザーと大衆社会論</p> <p>第4回 合理化と官僚制の問題(1):ヴェーバーの宗教社会学</p> <p>第5回 合理化と官僚制の問題(2):ヴェーバーの学問方法論</p> <p>第6回 合理化と官僚制の問題(3):ヴェーバーの近代官僚制の概念</p> <p>第7回 大衆社会の病状(1):マンハイムの大衆社会論</p> <p>第8回 大衆社会の病状(2):全体主義社会の特性</p> <p>第9回 大衆社会の病状(3):民主主義のパロメーター</p> <p>第10回 大衆社会と権威主義(1):フロムと自由からの逃走</p> <p>第11回 大衆社会と権威主義(2):歴史を動かす力としての社会的性格</p> <p>第12回 大衆社会と権威主義(3):アドルノと権威主義的パーソナリティ</p> <p>第13回 現代社会の諸課題(1):既成事実化と服従の心理</p> <p>第14回 現代社会の諸課題(2):情報社会と環境問題</p> <p>第15回 予備</p>		
授業外学習(予習・復習)	<p>講義中に提示する社会思想史の基本的文献を読むこと。ウィリアム・コーンハウザー『大衆社会の政治』、フェルディナント・テンニース『ゲマインシャフトとゲゼルシャフト』、マックス・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』、スタンレー・ミルグラム『服従の心理』、テオドル・アドルノ『権威主義的パーソナリティ』など。</p>		
授業の方法と学習上の留意点	<p>講義時間中に、思想家たちの著作内容について説明するので、原典を実際に手にとって読むことを心がけていただきたい。講義は、レジュメを用意し、理解しやすい講義を心がける。</p>		
成績評価基準	<p>成績は、学期末に行う試験(50%)と学年末のレポート(50%)等により決定する。</p>		
教科書	<p>使用しない。</p>		
参考文献	<p>ピーター・クレイギ、村田充八訳『聖書と戦争』(改訂版)、すぐ書房、2001年。村田充八『社会的エートスと社会倫理』晃洋書房、2005年。村田充八『宗教の発見』晃洋書房、2010年。村田充八『キリスト教と社会学の間』晃洋書房、2017年。</p>		
関連して受講することが望ましい科目	<p>社会思想史、社会倫理学、宗教社会学、社会学a、社会学b</p>		
シラバス分野	<p>学科科目</p>		